

<STEP3 事例 経営計画への落とし込みと取り組みの発信>

環境管理から経営管理へ（JR 西日本京都 SC 開発株式会社）

Q 取り組みの背景・きっかけ

- A
- 品質管理を進めるため、2008 年 3 月から 2017 年 3 月まで ISO 認証を得ていたが、コストや手間に課題を感じていた。当時の技術管理部長が KES 取得のノウハウを持っていたこともあり、2017 年度から KES に切り替えた。

Q 取り組みを進める上で工夫したこと・苦労したこと・利用した施策

- A
- 廃棄物削減対策では、テナント飲食店の食品残渣を減らすために排出量が多い店舗と個別面談をして削減方法を検討した。
 - 省エネ対策として AI スマート空調の実証実験を実施した。
 - 自社のごみ庫にバイオ型の生ゴミ処理機を設置することで運搬により排出される CO2 をカットし、また、テナント飲食店から排出される生ごみを、焼却せずにバイオ菌を用いて生分解させた結果、CO2 排出量を約 4 割削減できた。
 - 課題を認識した上で、解決に向けて自社でできることを考えた。
 - 環境改善目標を達成に向けた取組みを策定する方法について、トップダウン方式から、担当者間で検討したプランを社長へプレゼンして取組みを進めるボトムアップ方式に変更した。また、改善の進捗状況によって取組み内容を毎年見直すようにした。
 - 食品ロス削減を推進する無人販売機「fuubo」を設置した。



Q 取り組みの成果とメリット

- A
- テナント飲食店の食品残渣量は 2022 年には 2019 年比約 3 割の削減を実現した。
 - AI スマート空調の実証実験結果を基に空調のコントロールを行い、消費電力の対前年比 2 割減を達成した。
 - これまでの KES の取組みが評価され、KES 環境機構より感謝状を受領したことに続いて、京都市より京都環境賞特別賞（KES 推進賞）を受賞した。またより広く周知するため、SDGs の取組みを HP 等で積極的に発信していくこととした。
 - 経営企画部所管のもと、安全安心、コンプライアンスなど環境分野にとどまらない経営課題も積極的に管理目標に取り上げ、全社的な経営管理システムとして活用している。



JR 西日本京都 SC 開発株式会社（代表取締役社長 森本卓壽）

京都市下京区、従業員：54 人、事業内容：不動産賃貸業

(<https://www.porta.co.jp/sdgs>)